

- (1) 専門部会で協議する認知症対策事業が目指すイメージ  
 →「区民、関係機関、区が協力して、認知症の人やその家族を支えることにより、認知症になっても安心して暮らせる地域社会の実現」  
 ※ 第5期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より

(2) 課題・問題点と対応の方向性

※ アンダーライン：東京都在宅療養推進区市町村支援事業(モデル事業)活用を検討

①多職種の連携強化

	課題・問題点	対応の方向性
医療と介護の連携		
1	医師とケアマネの連携の充実 地域単位での顔の見える関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内各地区における事例検討会の開催</li> <li>ミニ地域ケア会議等でのケースカンファレンスの開催</li> </ul>
2	同じ言語で話せる基本的な知識が不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携研修、講演会等の実施</li> </ul>
コーディネート機能の充実		
1	医師とケアマネ・介護事業者間の連携を介する方が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネート能力向上研修 (地域包括支援センター職員・ケアマネ・訪問看護、MSW 対象)</li> <li>MSWの活用 (国・都事業…認知症地域支援推進員 or コーディネーターの導入)</li> </ul>
情報の共有化		
1	介護現場等で困ったときにかかりつけ医等に伝える方法がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護・家族の情報共有ツール(認知症地域連携パス)の作成</li> </ul>
2	個々の認知症の人に対する医療・介護支援ネットワークの構築	
3	かかりつけ医と専門医・サポート医間の連携や役割分担が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割分担と日常的な医・医連携の構築</li> <li>紹介状や連絡ツールの活用</li> </ul>

② サービス提供体制の充実

	課題・問題点	対応の方向性
人材の確保・育成		
1	在宅で医療的ケアのできるヘルパーが数少ない	・介護事業所職員の育成
24時間体制・後方支援病床の確保		
1	認知症により一般病床での受入れが困難なケースへの対応	・後方支援病床の確保
2	介護家族の事情による在宅療養生活の一時中断への対応	・老健ショートステイ、特養ショートステイ、緊急ショートステイ等
相談・診療体制の充実		
1	専門的な検査、診察が受けられる病院が少ない	・専門医、サポート医の活用 ・もの忘れ相談医リストの充実 …もの忘れ相談医リストに専門医、サポート医、専門病院を盛り込む
2	もの忘れ相談医の充実	・二次医療圏での研修 ・更新制度の導入
3	認知症サポート医の活用	・認知症専門相談の充実
4	訪問診療・相談のできる医師がほしい	・アウトリーチによる支援の充実 …初期集中支援チーム等

③ 家族介護者支援

	課題・問題点	対応の方向性
1	介護家族の疲弊 日常的な介護家族支援 初期の認知症の方の家族の心のケア 徘徊対策	・地域の協力者（パートナー）の発掘と育成 ・高齢者相談センター窓口の充実と周知 ・家族介護者支援の充実(家族会、電話相談、学習会等) ・アセスメントにて本人ニーズ、家族ニーズを把握しケアプランに反映 ・徘徊対策の見直しと見守り支援の強化

④ 区民への普及啓発

	課題・問題点	対応の方向性
1	認知症の理解が不十分 <ul style="list-style-type: none"> <li>・負のイメージの払拭</li> <li>・認知症の基本的理解と医学的理解が不十分</li> <li>・社会資源の周知が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な認知症を理解するサポーターの育成</li> <li>・認知症の医学的理解の普及               <ul style="list-style-type: none"> <li>…身近な地域、事業所での医師の講演等</li> </ul> </li> <li>・生活モデルの提示               <ul style="list-style-type: none"> <li>…グループホーム等生活の現場を見学</li> <li>…パンフレット等での啓発</li> </ul> </li> <li>・認知症に関する医療・介護サービス・相談機関等の周知               <ul style="list-style-type: none"> <li>…<u>地域資源情報集の作成</u></li> </ul> </li> </ul>
2	専門医等の受診につながらないケースも多い <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な診断の必要性の理解</li> <li>・判断能力のない本人や家族への介入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症専門相談の充実と活用</li> <li>・高齢者相談センター等、行政からのアプローチを活用し、家族の理解や受診を勧める</li> <li>・診断のメリットを周知               <ul style="list-style-type: none"> <li>…診断が必要なケアプランにつながり、安心して穏やかに暮らせる等</li> </ul> </li> </ul>
3	認知症の人のためのバリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症への理解と自然なサポートの醸成</li> <li>・事業名等馴染みやすいものに</li> </ul>
4	認知症予防教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域での予防事業の展開</li> <li>・民間資源の活用</li> </ul>